

# 新設幼稚園の経験について (承前)

東京市竹町尋常小學校附屬幼稚園 鎌田 しん

## 實際購入した備品

品名	個數	價格			
保母室用衝立	一	二五・〇〇	四人乗シート	一	一八・〇〇
幼兒用机	二〇	一五〇・〇〇	ピアノ(山葉一號)	一	六五〇・〇〇
幼兒用腰掛	一〇〇	二三〇・〇〇	ヒル氏積木	一	八五・〇〇
同長椅子	三〇	一五〇・〇〇	箱積木(板付)	一	一〇〇・〇〇
同整理戸棚	四	一五〇・〇〇	シングルベルス	六	九〇・〇〇
辨當棚	三	一一一・〇〇	錐	三〇	一・八〇
小形滑台	一	二八・〇〇	分配器	四〇	二・〇〇
四人乗ブランコ	一	七八・〇〇	ニツケル幼兒鉢	四〇	六・〇〇
大形滑台	一	七五・〇〇	ラシャ鉢	三	四・五〇
			護謨園印	一	一・五〇
			硯箱	三	一・三五
			硯石及文鎮	三	七五

大形バケツ	四	八五	トロッコ	五	一七・五〇
小洗面器	六	六〇	移動式車付砂箱	一	四〇・〇〇
幼稚園人形	三	三〇〇	篩	四〇	一〇・〇〇
大獨樂	一〇	二〇〇	バケツ小	二〇	二〇・〇〇
小獨樂	一〇〇	二・五〇	砂型	一〇	四・五〇
飯事用具	二	七・〇〇	砂場背景	二	四・〇〇
同膳部	二	二・四〇	バスケットボール	一	一〇・〇〇
五吋襷色	二	三・八〇	杓子	一〇〇	三・〇〇
同白	二	二・四〇	樂隊用具	一	四八・〇〇
庖丁	一〇	一・〇〇	幼稚園雜草	一	二・五〇
錘刺	六	一七・〇〇	幼兒の樂しむお話	一	二・八〇
大三角	二〇〇	四・四〇	理想の幼稚園	一	一・五〇
方柱體	二〇〇	四・四〇	大正幼年唱歌	一	二・五〇
平方體	二〇〇	四・四〇	幼兒に聞かせるお話	一	三・八〇
小三角	二〇〇	四・四〇	幼稚園實際的保育學	一	三・〇〇
立方體	三〇〇	九・〇〇	保姆用教育學	一	二・八〇
長方體	四〇〇	一二・〇〇	生活圖畫指導	一	二・六〇

グリム御伽噺	—	二・八〇
續グリム物語	—	二・八〇
アンデルセン御伽噺	—	二・八〇
人の教育	—	二・〇〇
短い對話と小さい劇	—	一・六〇
子供の繪の觀方と育て方	—	三・五〇
コドモノクニ	二〇	一〇・〇〇
コドモアサヒ	二〇	五・〇〇
子供の友	二〇	五・〇〇
幼稚園唱歌	—	五〇
律動遊戲	—	二・五〇

### 保育の實際

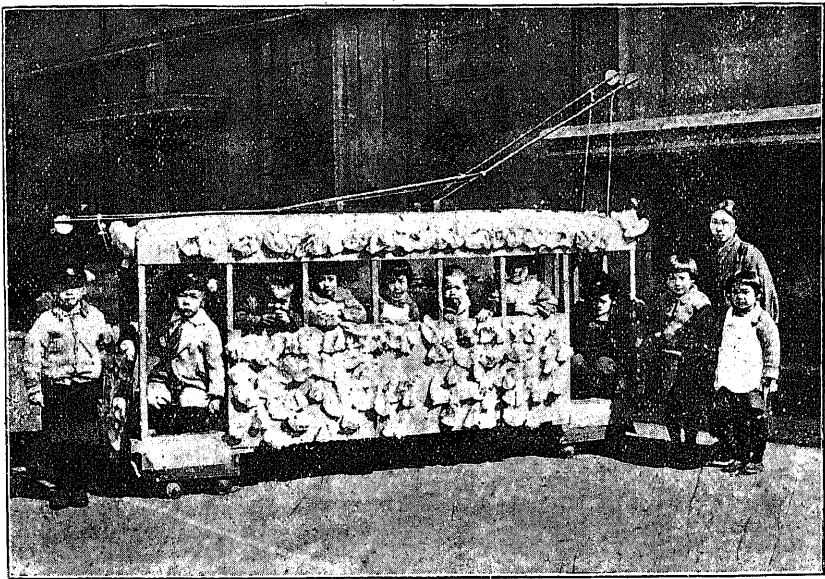
下町の幼稚園で幼児の家が忙がしい商人の爲、大方家庭の手が届かないので家でしななければならぬ。いやいな事まで、幼稚園の生活の内に織り込む。爪を取つたり、帽子、手拭、に名前を書く、

エプロンの洗濯等。初めは喧嘩が非常に多かつた。打つ、ひつかく、泣く、云ひつける、一々取り上げて居ると一日中それにかゝり切りにならなければならぬ。いろ／＼考へた末、遊びを豊富にする事と場所を廣く使ふ事にした何しる遊びにうえて居る子供達なので面白いやうに遊び出す。殊に男の子供達にはヘト／＼につかれる位相撲を取らせたり、スキップ、鬼ごっこ、かけっこをしたり小学校の肋木の昇り降り、スプリングボードを飛ばせたり、平均台を渡らせたり、飛び箱を飛んだり、ジャングルジムを使つて鬼ごっこをしたり、はしごのぼりをしたり、可成思ひ切つた遊びまでした。その爲か喧嘩早かつた子供達が不思議な位おとなしく遊びに入つて行く。子供達も注意深くなりその爲の怪我等も殆どない。

## 電車作りと遊び

幼稚園を出るとすぐ電車道がある、子供達の家の前はいつも電車が走つて居る、幼稚園へ来るにも電車道を通つて来る。此のやうな環境にある幼児達なので實によく電車を描き又ボール紙、空箱、積木で作る。

或る日箱積木とヒル氏の積木で電車を作つて居た、「先生車貸して頂戴」「何に使ふ車」電車の車にするの」考へた末トロッコを出してやる。どう



もうまく行かないすぐずれて了ふ。翌日荒けずりの材木を買ひにゆき電車の組立てが初まつた。なか／＼うまく出来ない電車道まで電車を見に行く。手工の先生小使まで手傳つてくれる。外廊を作り、側面を造り上げたやつと電車の形らしくなる、今度は床をはる車では随分頭をひねつたトロッコ四台を動かさないやうに取りつける、これで動く電車が出来た、皆乗りたくてたまらない。車の内部は椅子十二個を入れ

る廣さがある。チャン／＼も鈴で出来た。ボールもついた。骨組はボール紙でおぼはれ櫻紙で花がつくられて子供達は一々糸で結びつけ遂に花電車が出来上つた。これに費された日数は約一ヶ月半。費用は十圓を出なかつた。(トロッコは別)

その次の作業は一層個人的である。切符作り。お金作り。停留場、切符入れ、お金入れ、運轉手と車掌の名札、車の符號、方向板、等。總ての園児がこの作業に加はつた。

いよいよ開通。どの停留場にも澤山まつて居る。切符の讀めないお客様があるので色分けにしてあるが、車掌(幼兒)の骨折はなか／＼らしい。大喜びで毎日毎日此の遊びが續く。

一つの大きな作業は協同精神を發達させた。そして必要の時だけ助力を求める事を學んだ。その完成には努力と忍耐とを要した。(次號につづく)

## いよまさ集

いよまさのいろのいろ／＼掃きよせしその切り屑に春はゆくかも

いよまさのいろをそれぞといひがてに電話ときる／＼若き保姆かな

ねだられて戸棚から出すいよまさの重ねて重き初夏の朝

紙戸棚その硝子戸の前にして襟をながむるいよまさの主

何となくわびしき日なりいよまさのうす紫をぬき出して見る  
(そうぞう)